

令和5年12月18日

発 言 者	発 言 要 旨
齋藤委員	積雪寒冷地域において道路の破損等への対応は大きな課題であり、その対策として、国で凍上災の災害復旧事業の採択を行っているが、本県における近年の採択状況はどうか。
砂防・災害対策課長	本県では、平成24年に県内18の観測点全てにおいて異常気象の要件を満たし、凍上災が採択された。
齋藤委員	国土交通省が主催する、積雪寒冷地域における道路舗装の損傷に関する有識者会議に本県も参加しているが、議論の内容及び議論における本県の考え方はどうか。
道路保全課長	<p>積雪寒冷地域において道路舗装が傷みやすくなっていることから、今年7月に、学識経験者、国土交通省、積雪寒冷地域の自治体等で組織する有識者会議が設置された。</p> <p>本会議では、地球温暖化等の影響も踏まえ、短期間で気温が大きく変動したり、集中的な降雪が増えたりすることによる道路舗装の損傷具合の相関関係を調査している。</p> <p>1日の間に気温が0℃前後を上下する、ゼロクロッシングと呼ばれる温度帯になる日数に着目して全国で道路調査を進めており、県内では一般県道赤坂真室川線、新庄市道、鮭川村道、米沢市道、舟形町道等の8箇所が調査対象として選定されている。</p> <p>本会議には、私も委員として参加しており、明日の午後に第2回検討会が開催されることから、本県の舗装の劣化状況等の実情をしっかりと伝えていきたい。</p>
齋藤委員	県土整備部の令和6年度当初予算における施策の体系について、道路の維持管理が1つの項目として新設されており、5年度と比較してより強固な表現になったと感じるが、この意図及び背景はどうか。
道路保全課長	舗装管理の現状として、これまで以上に道路の穴埋めや段差解消の処理等が多くなっていることから、70%が交付税措置される総務省の緊急自然災害防止対策事業債を活用し、集中的な舗装の長寿命化対策の実施を検討している。
齋藤委員	小国町明沢川地点における水力発電所建設事業が中止となったことにより、山形県企業局経営戦略における電気事業の財政計画に与える影響はどうか。
電気事業課長	中止した建設事業の事業費の使い道としては、今後20年から30年の間に4発電所のリニューアル事業を予定しているが、今回の事業費増高による事業中止を教訓として事業費の増高に備え、また、4発電所のうち朝日川第二発電所のリニューアル事業の前倒しをしたいと考えている。
齋藤委員	リニューアル前倒しのスケジュールはどうか。
電気事業課長	事業着手を令和15年頃と想定していたが、2年程度前倒しできないか来年度基本設計を行う。
齋藤委員	既にリニューアルを完了した朝日川第一発電所について、リニューアルの効果は

発 言 者	発 言 要 旨
電気事業課長	どうか。 発電効率が5%以上、最大出力が9,000kWから9,500kWに上昇し、年間約800万円、約2.7%の増収となっている。
齋藤委員	朝日川第二発電所のリニューアルに求める効果はどうか。
電気事業課長	リニューアルは必ずしも出力アップにつながるものではないが、可能な限り出力が上がるよう検討していきたい。
相田(日)委員	道路脇の支障木や雑草の伐採、排水の整備等の道路維持管理について、作業の実施基準及び時期はどうか。
道路保全課長	各路線における道路環境の違いにより、草の繁茂状況や泥の堆積状況が異なることから、いずれの維持管理作業も個別の対応であり、方法や頻度の基準はない。 なお、除草については危険な箇所を年に1回程度実施している。
相田(日)委員	自動車の運転支援機能等で活用している道路の区画線について、雪国の場合、除雪等で剥がれることから耐用年数は3か月から1年程度のようなのだが、区画線の引き直しの基準はどうか。
道路保全課長	区画線の状態や交通量、利用状況等を勘案し、県内全体で約3億円という限られた予算の中で優先順位を決めて実施している。 区画線の種別による優先順位はないが、歩道が整備されている区間や、歩行者が少ない区間等の歩行空間明示の必要性が少ない区間については、外側線よりもセンターラインを優先している場合が多い。
相田(日)委員	作業の実施時期はどうか。
道路保全課長	区画線等は、除雪作業や大型車両のチェーンで削られることが多いことから、作業時期については、基本的にゼロ県債を活用し春先に発注している。
相田(日)委員	除雪の出動回数が少なくても、待機する除雪作業員の人件費を一定程度補償するよう令和2年度に見直してから3年が経過したが、受注者側の意見等をどのように把握しているか。 また、受注者は除排雪の際に使用する重機やダンプ等を確保しておく必要があるが、人件費以外の部分についての補償の考え方はどうか。
道路保全課長	事業者へのアンケートや県建設業協会との意見交換を通じて稼働補償への意見を聴いているが、今のところ補償の見直しについての意見はない。 また、排雪用のダンプは稼働補償の対象としていない。排雪に際しては、自社所有や借上げ等で確保したダンプを使用していると考えられ、その確保方法については、通常の工事と同様に県側からの指示や関与はなく、他事業での活用を含め、受注者判断となっている。 今後も必要に応じて、実態の把握等に努めていきたい。
相田(日)委員	令和6年度当初予算で要求している建設業魅力発信事業の事業内容及び実施方法

発 言 者	発 言 要 旨
建設企画課長	<p>はどうか。</p> <p>県では、これまでけんせつ女子ツアー一等の事業により女子高校生や女性技術者の入職を促進してきたが、業界等の意見も踏まえ、進路選択の第一段階を迎える中学生等に対する取組を強化するものである。DXや女性の活躍が進んでいる建設業の現状について、より理解を深めてもらうためのコンテンツや動画の作成を通して、生徒や保護者、教員等にアピールしていきたい。また、コンテンツを作成する過程においては、見学会や体験会等を実施して中学生の生の声を取り入れ、建設業を身近に感じてもらえる工夫をしていきたいと考えている。</p> <p>実施方法としては、県建設業協会への補助事業として実施する予定である。</p>
相田（日）委員	<p>県民ゴルフ場について、サービス向上や安全対策、従業員の作業効率向上等に対する今後の取組はどうか。</p>
総務企画課長	<p>県民ゴルフ場は開業から 25 年程度経過し、クラブハウスやコース内の設備等が老朽化していることから、まずは老朽化対策に重きを置いて修繕や更新等を計画的に進めている。</p> <p>今年度はクラブハウスの空調設備の一部やコース管理のための薬剤散布の車両等の更新を行った。来年度は、コース内の散水設備の更新、グリーンを管理する機材の更新等を予定している。今後も、クラブハウスの空調や厨房設備、コース内の設備、管理機材等を順次更新していきたい。</p>
佐藤（正）委員	<p>鶴岡市西目地内で発生した土砂災害の工事で発生する残土について、鶴岡市内で活用したいという要望があるようだが、要望に基づいて残土を活用することは可能か。</p>
砂防・災害対策課長	<p>発生した残土については、掘削工事を発注する段階で、受入先を調整しており、現在は鶴岡市外の場所に運搬している。</p> <p>鶴岡市内での活用について要望があった場合は、まずは相手先と調整し、残土の受入れが可能な時期、受入量、受入体制、現地の状況等を踏まえ検討を行い、条件が整った場合には、可能な限り対応していきたいと考えている。</p>
佐藤（正）委員	<p>地域の建設会社等から県内で骨材が足りないという話を聞いた。県が以前、県内の骨材単価を地域ごとに調査をしたが、昨今の燃油の高騰や物価の上昇といった情勢の変化を踏まえ、再度、全県での状況把握が必要と考えるがどうか。</p>
建設技術主幹	<p>主に生コンクリート用骨材を供給している庄内の採石場において、令和2年の秋頃から軟岩層の混入や原石山の一部に亀裂等が生じたことによる減産が続いており、現在、庄内地域における生コン用骨材の不足分を北海道や青森県から船便で調達して対応している状況である。その他、碎石について県内で供給が不足しているといった話は把握していない。</p> <p>なお、庄内地域における生コンの設計単価については、原材料の一部を県外から調達していることもあり、実勢価格の上昇に基づき、その他の土木関係資材同様、毎月の単価改定において適時反映し、適正な予定価格の設定に努めている。</p> <p>実態調査については令和3年度に実施しており、基本的にどの採石場においても、20年以上の長期にわたり供給可能ということで確認しているため、追跡調査の必要</p>

発 言 者	発 言 要 旨
佐藤（正）委員	<p>性はないと認識しているが、今後も状況の変化があれば、追跡調査の実施や実勢価格の実態の確認等によりしっかり把握し、安定供給の把握及び適正な単価設定に努めていきたい。</p> <p>建築士事務所登録事務を行う県建築士事務所協会から、登録事務オンライン化への移行準備等により事務が増加していることや、協会運営に係る管理費等の必要経費が、物価の高騰等で大変厳しい状況にあり、運営に支障をきたしていると聞いている。こうした状況下でも、県の手数料条例で定められている建築事務所登録手数料は平成21年以降改定されておらず、円滑な運営を行うためにも、登録手数料の改定が必要であると考えているがどうか。</p>
建築行政主幹	<p>手数料の額が実態に合わないということについては、協会からも話を聞いているが、他の都道府県も同じ状況であり、全国的な課題となっている。今後、他の都道府県とも情報共有を図って適切に対応してまいりたい。</p>